

幼 兒 教 育

第二十二卷
第八號

大正十一年八月十五日發行

子供を實生活に接觸せしめよ

高師附屬小學校 佐々木秀一

今はもう、楽しいく暑中休暇も半ば以上過ぎてしまひましたが、この長いお休みにこそ、お子様方を持つ父兄の方々は、充分にお子様方に實際の生活を味はせて頂きたいのであります。

私が教へて居りました幼い子供に、或る時、「麥は何處に生えますか？」と尋ねましたら、「麥は稻に生えます。」と答へました。その子供は、麥と云ふ言葉、稻といふ言葉は、よく知つてゐますが、麥も稻も實物を見たことがなく、従つて概念がはつきりしませんでしたので、このやうな滑稽な答をしました。又ある子供に、「麥を見たことがありますか？」と尋ねましたら、「あります。」といふので、「何處で見ましたか？」と問へかへすと、「先生、瓶の中にはいつて

ゐるのを見ました。」と答へました。その子供も、前の子供のやうに、瓶に入れられた標本か何かの麥しか知らないのであります。實際、麥の生えてゐるところを見たことがないのであります。

このやうな例を見ますと、都會の子供は、色々な言葉は知つて居りますが、其の言葉の内容が明らかにわかつて居らず、たゞ巧みに言葉をならべて用ひてゐるだけであります。間口は随分と廣いのであります。但し、奥行は少しもないのであります。

これを田舎の子供に比べますと、田舎の子供は、麥が蒔かれてみのある迄の経過を自然と見て居ります。また、蛙が「オタマジャクシ」の時からどんなにして生長してゆくか、自然物の生立を知らずくりに

知つてゆくのであります。それ故、田舎の子供は、都會の子供のやうに、巧みな言葉は知らなくとも、器用に言へ表はせなくとも、内容は豊富なのであります。間口は狭いけれども、奥行は深いのであります。

このやうな子供時代からの環境は非常に影響を及ぼして、都會の子供は、現在の状態ばかりを見て、物事を判断して、過去及び未來については深く考へないと云ふ弊があります。田舎の子供は、現在の状態を一目見てどう處置をどうしたらよいか、といふやうな判断が早く出來なくつても、その物事の過去を知り、更に未來を考へて見て、然る後に、處する態度をきめるのでありますから、都會の子供のやうに、敏捷を缺きがちにはなりますが、判断に過失がありません。どちらの傾向がよろしいかと云へますれば、田舎の子供の方が、將來人間としてたのもしいのであります。

それで、事情の許す限りは、都會から子供をはなれさせて、自然に親しませ、どんなにして草が生えてゐるか、どんなにして魚が海の中に泳いでゐるかを出來るだけ知らせてやりたいと思ひます。又田舎

にばかり育つてゐる子供は、文明の諸機關に就いて、都會の子供が麥や稻を區別出來ぬやうに、ほんやりした概念しか有してゐないかも知れません。その時には、田舎の子供を都會の親類等へつれて來て、電話をかけさせて見たり、自動車に乗せて見たりするのも、大層よい事だと思ひます。

前に述べましたやうな考をもつて居ります私には、幼児教育の權威とも云ふべきモンテソリーの教育法に對して、少し疑問があるのであります。モンテソリーは幼児の教育の中で、殊に感覺の練習及び筋肉の練習に重きを置きましたのは、私共も大いに教へられるところが多いのであります。然し、其等の練習をさせるために、特種の工夫をこらして、色々の機械をつくつて、フレイベルの恩物以上の物を用ひて居ります。

例へば、色彩を教へる時には、綠色、赤色、黄色等の濃淡さまざまな色板の類を用ひて教へて居ります。なるほどかうすれば、色彩の感念が理想的に頭に入るのでありませう。然し、子供に始めからかうした形式に入るよりも、子供の目に觸れるものゝ間から例をどうつて色彩を教へ、後になつてから、系統

をたて、まどめたらどうかと思はれます。赤色を教へるにしても、「お庭に咲いてゐる薔薇は赤い色です。」また、「あなたのリボンも赤い色です。」どちらが濃いでせう、「リボンの方の赤が濃いでせうか」といふやうに、すべて手近な所に例をもつて來たらよろしいでありませう。

また、重量を知らせる時にも、モンテソリーによれば、大小種々のオモリを並べて、微妙な重さの差異も知らせ得るやうにしてあります。然し、子供は、このやうに理想的に配置されたオモリの場合には、よく重量がわかつても、茶碗と花瓶とはどちらが重いか、この小包とその小包とはどちらが重いか、といふ場合になりますと、實物によつて練習したのでなければ役に立たぬではないか、と思ひます。

モンテソリーの教育法は、何から何まで、一定の形式を踏んで施して、行きますから、子供の發達は實に著るしいものでありますし、我が國のやうに、幼児教育の研究も淺い、秩序なども明かでない所では、モンテソリーの教育法は望ましいのでありませうが、たゞ始めから形式にあてはめてすると云ふ點に、不満を有してゐるのであります。それですから、實際

の方法に於てよく練習をさせてから、最後に理論をした方がよろしいのではないか、と思ひます。モンテソリーの教育はちやうど文法を始めから教へるやうなものであります。幼い子供のことでありますから、非常にむづかしくあるだらうと思はれます。モンテソリーの教育法を一方に於て非常に立派なものであると思ふと共に、かうした事も考へて居りますので、一言申して見ました。(文責在記者)